



本村幼稚園 1月の園だより

令和5年1月10日 港区立本村幼稚園長 山村 登洋

本園のメリットを活かして幼小接続

園長 山村 登洋



◇保護者の皆様、地域の皆様、
新年あけましておめでとうございます。◇

新しい年、令和5年を迎え、気持ちも新たな子供たちです。コロナ禍ではありましたが、制限無しのお正月を過ごして楽しかったことを友達や先生に笑顔でお話しています。自分の経験したことや感じたことを、自分の言葉や動作で表現することが上手になりました。1月前半はお正月の歌を楽しく歌ったり、踊ったり表現活動を楽しんでいます。

12月に行った展覧会、お餅つきでは、保護者や地域の皆様にご参観、ご参加いただき、ありがとうございました。ご家族の皆様にも褒められたいと張り切っている様子が微笑ましかったです。

3学期は、就学を視野に入れた園生活のまとめを進めていきたいと思います。就学前教育の大切さについては、これまで多くの場で説明をまいりました。小学校への就学は、保護者以上に子供たちにとって大きな期待と不安を伴います。それだけに一人一人の期待と意欲に応える、よりなめらかな接続が求められます。特に幼小の接続は、学びに就くという初等・中等教育へ繋がる大きなステップです。その意味で就学前における教育において、子供たちの興味や関心を活かした遊びを通して、さまざまな学びの芽生えを積み上げるとともに幼小の連携の視点が重要となってきます。



就学前教育にあたっては、小学校のような時間割や決められた休み時間などの設定はありません。常に子供たちの気持ちに寄り添い、実態に合わせた環境の中で遊びを通していろいろな経験を積み重ねることで、生活習慣や社会性などを学んでいきます。小学校から始まる決められた時間割やチャイム、教科は大きなハードルです。そこで大切なことは、このような環境の変化の捉え方です。

環境の変化を飛躍のステップとして考えるか、幼→小への段差の解消という視点で受け止めるかによって、接続の在り方が大きく異なります。なめらかな接続は、単なる段差の解消ではなく、校種のハードルを乗り越える努力や工夫とともに乗り越えた達成感や自信の獲得によって実現します。子供たちがハードルを乗り越えようとする力を培う幼小の連携の環境作りが大切です。

本村小学校との交流や接続は、本園の最大のメリットです。年間を通じて、全園児が小学校との関わりを進めています。間近に小学校があることは、いつかはあのような小学生になりたいと思う園児を温かく受け止め、惜しみなく働きかける児童の姿が溢れる環境です。この環境を最大限に活かして、どの子も自信と意欲をもって就学できる力の育成を目指していきます。ご家庭でも応援をよろしくお願いいたします。

子育てをしていらっしゃる

皆様に送る言葉

○子育てに苦労した親ほど、後から子供に感謝される。

○子育てを通して親も成長する。

○何でも親がしない。できることは子供にやらせてもらう。

○親として100点満点を目指さない。

○弱音を吐かないと立派な親にはなれない。

○子供は喜びと感動を与えてくれる存在。

「子育てに疲れたときの30の言葉」より

